

今日のキーワード 今年の新入社員は「ドローン型」(日本)

公益財団法人日本生産性本部は、毎年3月に、新入社員の特徴をまとめ、「〇〇型」として公表しています。若年者の就労支援や教育の専門家などで構成されたメンバーが、企業や大学等の就職・採用担当者の協力を得て、新入社員の特徴や就職・採用環境の動向について調査研究するものです。2016年度の新入社員は「ドローン型」と命名されました。

ポイント1 「ドローン型」の特徴は

自立飛行で着地、さらなるスキルアップで今後の貢献に期待

- 3月23日に発表された今年の新入社員の特徴は、「ドローン型」に決定しました。「強い風（就活日程や経済情勢の変化）にあおられたが、何とか自立飛行を保ち目的地に着地（希望の内定を確保）できた。さらなる技術革新（スキルアップ）により、様々な場面での貢献が期待できる」、というのが理由です。
- また、今後の「ドローン型」新入社員に対しては、「内外ともに社会の変革期にあるため、世界を広く俯瞰できるようにしてほしい。なお、夜間飛行（深夜残業）や目視外飛行は規制されており、ルールを守った運用や使用者の技量（ワークライフバランスへの配慮や適性の見極め）も必要」、と結んでいます。

ポイント2 ドローンの活躍に期待

使用法には注意が必要

- ドローンは、現在の撮影や情報収集などの用途の他に、今後は警備や輸送など様々な分野での活躍が期待されます。今年の新入社員達が、東京オリンピックを迎えるころには、スキルアップを経てドローンはさらなる進化を遂げていることでしょう。
- 一方、ドローンの使用者（上司や先輩）の操縦ミスや使用法の誤りによって、機体が傷つくことや紛失することがあるかもしれません。また、充電式なので、長時間の酷使には耐えられない恐れもあります。



今後の展開 2017年春の新卒採用も好調続く

■ 好調だった今年の就職戦線

今春卒業の大学生の2月時点での就職内定率は、前年同期比1.1ポイント上昇の87.8%でした。これは5年連続の上昇です。4月1日時点での最終的な就職率は、昨年の96.7%を上回り、調査開始以来の最高だった2008年春の96.9%を超える可能性が高いです。企業収益が2年連続で過去最高を更新するなど、企業の採用意欲の高まりが反映されました。

■ 2017年の新卒採用も順調

既にスタートしている2017年春の新卒採用も順調な見込みです。日経新聞社の調査によれば、主要企業の大卒採用数は、今春に比べ10.7%増加する見通しです。製造業の一部には採用を手控える動きが見られるものの、小売りやサービスなど非製造業の採用意欲が旺盛のようです。さて、来年の新人は「何型」と命名されるのでしょうか。

ここもチェック! 2016年 3月28日 「大学生の就職」、好調続く(日本)
2016年 3月 8日 日本の主要企業の業績見通し

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。